

第2章 調査結果の概況

(1) “明るく正しい選挙” についての評価 (Q1)

- ・今年4月12日に行われた“統一地方選挙”について、「非常に“明るく正しく”行われたと思う」人は8.3%、「まあ“明るく正しく”行われたと思う」人は62.1%で、両者を合わせると7割の人は、“明るく正しく”行われたと評価している。
- ・一方、「あまり“明るく正しく”行われなかったと思う」人は22.5%、「まったく“明るく正しく”行われなかったと思う」人は4.6%で、合わせると“明るく正しく”行われなかったと思う人は3割弱みられる。
- ・これまでの調査と比較すると、「“明るく正しく”行われたと思う」人の割合は平成7年以降ほとんど同じである。

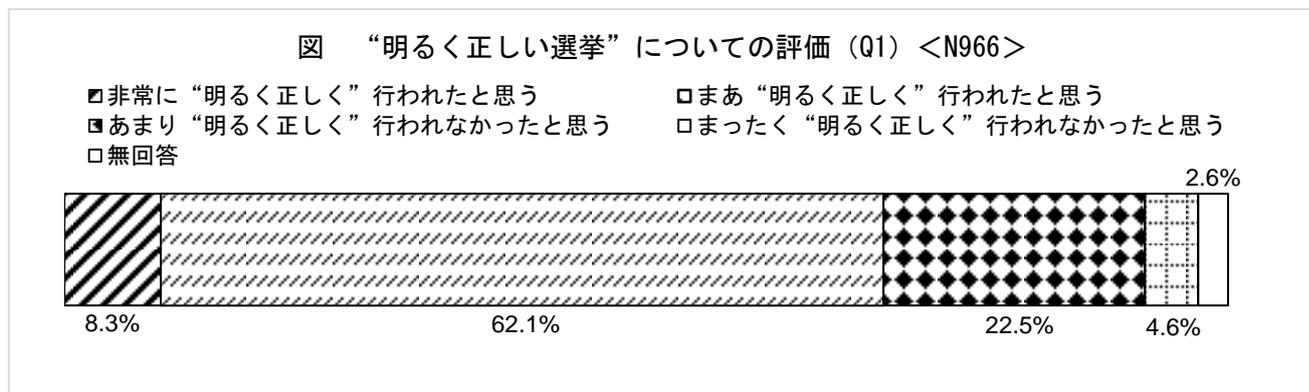


表 “明るく正しい選挙” についての評価 (時系列変化)

	回収数	“明るく正しく”行われたと思う計	非常に“明るく正しく”行われたと思う		どちらともいえない	“明るく正しく”行われなかったと思う計			無回答
			非常に“明るく正しく”行われたと思う	まあ“明るく正しく”行われたと思う		あまり“明るく正しく”行われなかったと思う	まったく“明るく正しく”行われなかったと思う		
昭和54年	1431	30.7	—	—	39.4	15.6	—	—	14.5
昭和58年	1857	52.8	3.7	49.1	—	37.0	33.3	3.7	10.2
昭和62年	1921	65.6	4.3	61.3	—	27.9	24.8	3.1	6.5
平成3年	1656	59.7	3.9	55.8	—	33.2	29.5	3.7	7.2
平成7年	1694	72.1	4.6	67.5	—	24.0	20.7	3.3	3.9
平成11年	1650	71.8	4.8	67.0	—	22.9	20.6	2.3	5.3
平成15年	838	70.5	6.0	64.6	—	27.2	23.3	3.9	2.3
平成19年	640	75.5	5.5	70.0	21.7	21.7	18.6	3.1	2.8
平成23年	1201	70.4	5.3	65.0	—	26.8	22.6	4.2	2.8
平成27年	966	70.4	8.3	62.1	—	27.0	22.5	4.6	2.6

注) 数値は回収数を100とした%

(2) 寄附禁止等の認知状況 (Q2)

- ・ 寄附禁止等の内容で違反と思われるものを複数回答で挙げてもらったところ、8割強の人は何らかの項目を認知しており、平均回答個数も5.1個みられ、認知は高い。8項目中6項目については半数近くの人が認知しており、中でも認知が高いのは、「政治家が町内の各種会合にお酒を差し入れること」71.4%、「政治家に町内の祭りの寄附を求めること」61.8%などの町内会に対する寄附行為に関する項目である。
- ・ 前回（平成23年）、寄附禁止等について、町内への寄附や企業からの寄附に関する認知が下がる傾向にあったが、今回は前々回と同水準に回復した。
- ・ 「よくわからない」「無回答」の割合が、一定数存在しており、今後も注意すべきと思われる。

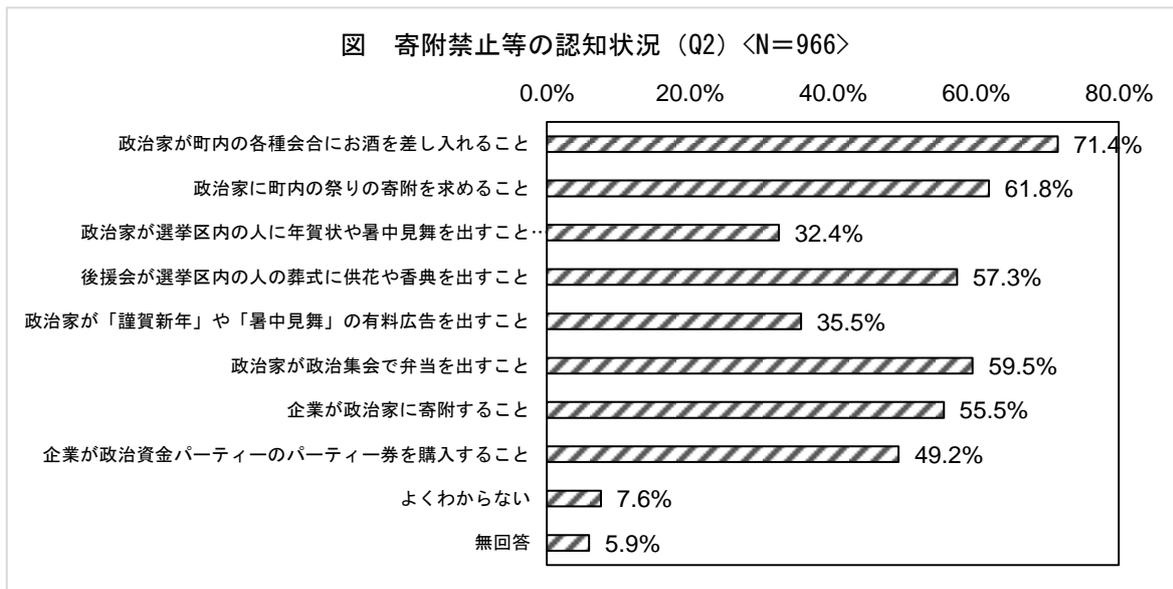


表 寄附禁止等の認知状況 (時系列変化)

	回収数	政治家が町内の各種会合にお酒を差し入れること	政治家に町内の祭りの寄附を求めること	政治家が選挙区内の人に年賀状や暑中見舞を出すこと（答礼のため自筆によるものを除く）	後援会が選挙区内の人の葬式に供花や香典を出すこと	政治家が「謹賀新年」や「暑中見舞」の有料広告を出すこと	政治家が政治集会で弁当を出すこと	企業が政治家に寄附すること	企業が政治資金パーティーのパーティー券を購入すること	よくわからない	無回答
平成3年	1659	76.3	69.7	40.8	59.1	38.8	60.6	—	—	9.1	3.7
平成7年	1694	77.0	70.4	3.8	58.0	31.9	59.6	61.4	60.6	4.5	1.8
平成11年	1650	74.7	66.8	30.8	54.5	29.9	56.5	60.3	57.1	5.6	4.7
平成15年	838	75.1	64.7	27.4	57.3	25.8	53.5	58.1	53.2	6.4	1.4
平成19年	640	74.4	61.4	25.5	56.7	24.4	59.4	52.8	52.0	13.3	1.4
平成23年	1201	72.1	59.5	32.4	53.1	32.3	53.4	47.5	43.5	10.2	1.4
平成27年	966	71.4	61.8	32.4	57.3	35.5	59.5	55.5	49.2	7.6	5.9

注) 数値は回収数を100とした%

(3) 選挙違反の認知状況 (Q3)

- ・同様に、選挙違反の内容で違反と思われるものを複数回答で挙げてもらったところ、8割は何らかの項目を認知しており、平均で3.1個を挙げた。最も高いのは「選挙期間中に、映画や演劇等の幕間に特定の候補者が、投票をたのむこと」62%、次いで「選挙期間中、知人などの家を訪ねて特定候補者への投票をたのむこと」49%となっている。
- ・選挙違反内容の認知が、前回に各項目とも上がる傾向が見られたが、この傾向は維持されている。
- ・「よくわからない」「無回答」の割合が、選挙違反内容についても、一定数存在しており、今後も注意すべきと思われる。

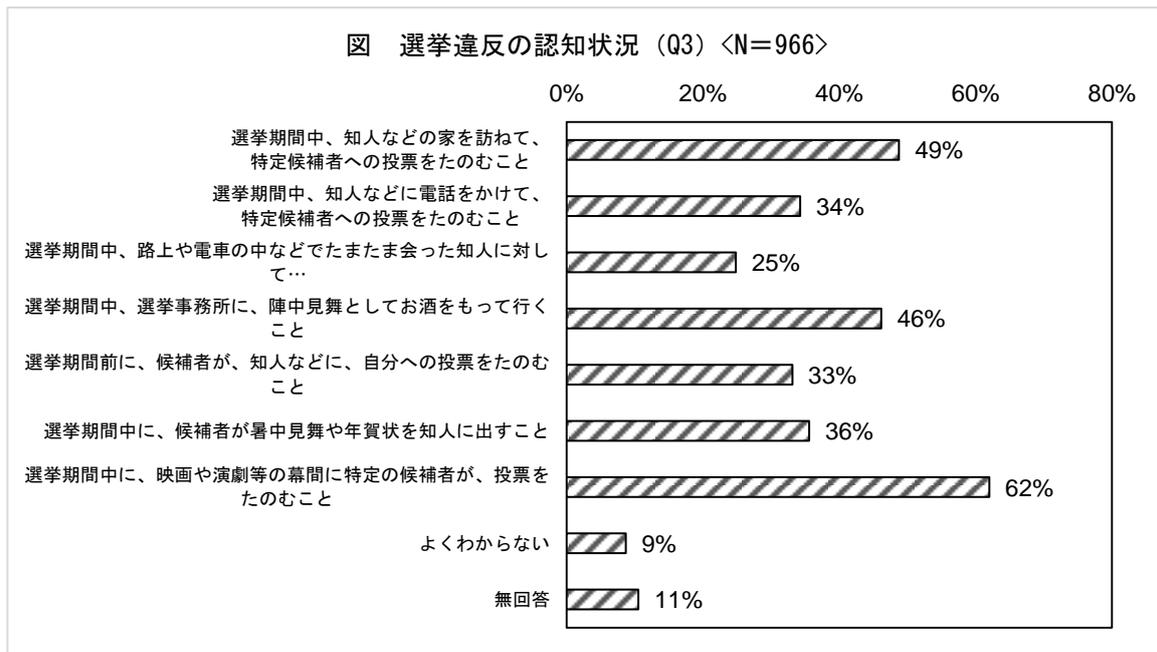


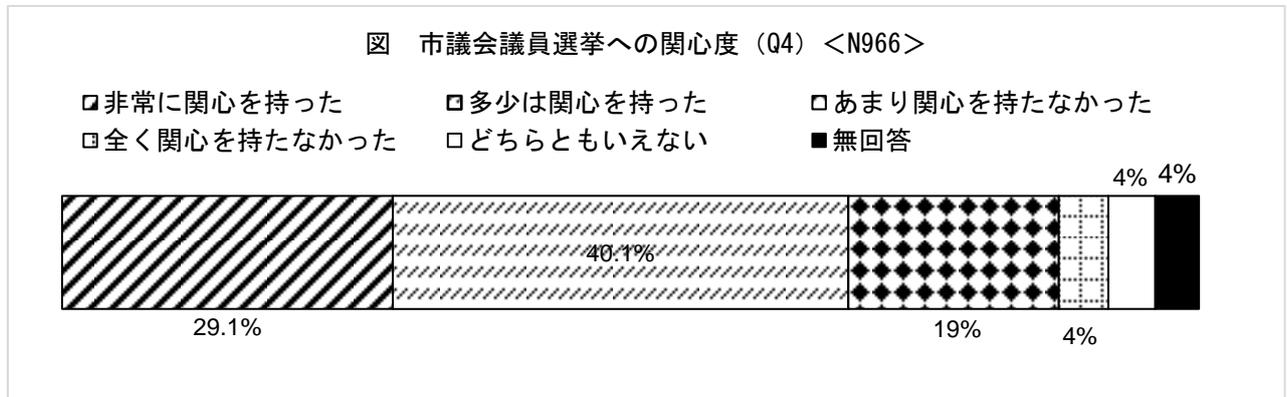
表 選挙違反内容の認知状況 (時系列変化)

	回収数	選挙期間中、知人などの家を訪ねて、特定候補者への投票をたのむこと	選挙期間中、知人などに電話をかけて、特定候補者への投票をたのむこと	選挙期間中、路上や電車の中などで、特定候補者への投票をたのむこと	選挙期間中、選挙事務所に、陣中見舞としてお酒をもって行くこと	選挙期間前に、候補者が、知人などに、自分への投票をたのむこと	選挙期間中に、候補者が暑中見舞や年賀状を知人に出すこと	選挙期間中に、映画や演劇等の幕間に特定の候補者が、投票をたのむこと	よくわからない	無回答
昭和62年	1921	51.0	30.0	23.1	28.7	37.5	29.2	61.8	7.2	7.0
平成3年	1659	59.7	40.5	31.0	42.2	42.5	45.2	66.3	9.3	4.3
平成7年	1694	55.4	31.7	24.7	42.9	39.0	40.5	67.7	8.3	4.3
平成11年	1650	49.9	31.5	24.1	42.1	37.2	37.0	63.6	10.5	7.2
平成15年	838	48.6	32.3	22.9	40.1	38.3	32.9	61.8	7.6	7.4
平成19年	640	48.4	31.3	21.4	41.6	34.5	32.8	63.3	15.3	2.8
平成23年	1201	53.9	34.5	25.8	45.7	38.1	36.1	64.2	12.1	2.2
平成27年	966	48.8	34.3	24.8	46.2	33.1	35.6	62.0	8.7	10.6

注) 数値は回収数を100とした%

(4) 市議会議員選挙への関心度 (Q4)

- ・今回の市議会議員選挙について「非常に関心を持った」人は 29.1%、「多少は関心を持った」人は 40.1%で、合わせると関心を持った人は 69.2%を占める。一方、「あまり関心を持たなかった」19%、「全く関心を持たなかった」4%と合わせると関心を持たなかった人は 23%となる。



(5) 市議会議員選挙の投票状況 (Q5)

- ・今回の市議会議員選挙に「投票した」人は 77.3%を占める。
- ・投票した人の割合は平成7年以降7割台とほぼ変わらない。

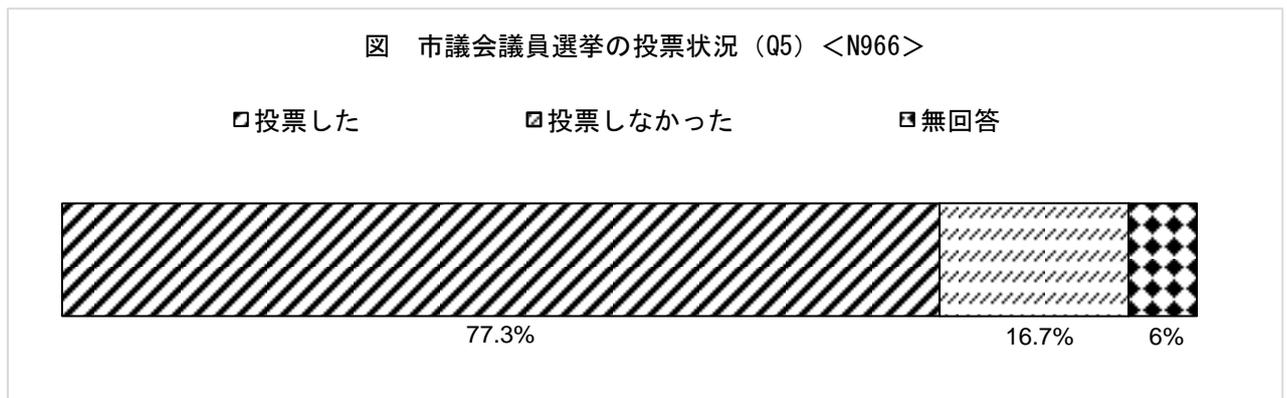


表 市議会議員選挙の投票状況 (時系列変化)

	回収数	投票した	投票しなかった	無回答
昭和54年	1368	80.3	18.8	0.9
昭和58年	1857	77.5	21.4	1.1
昭和62年	1921	47.3	2.2	0.5
平成3年	1574	69.4	30.4	0.2
平成7年	1496	73.3	26.5	0.2
平成11年	1650	75.5	24.1	0.4
平成15年	838	75.7	23.7	0.6
平成19年	640	73.6	26.1	0.3
平成23年	1201	76.3	23.7	0.0
平成27年	966	77.3	16.7	6.0

注) 数値は回収数を 100 とした%

(6) 棄権した主な理由 (Q6)

- ・一方、「投票しなかった」人は16.7%。棄権の理由をひとつだけ聞いたところ、最も多い理由は「用事があったから (忙しかったから)」26.7%、次いで「病気だったから」17.4%、以下、「候補者の政策や人物などがよくわからないから」・「今回の市議会選挙には関係がないから」9.3%と続いている。
- ・棄権した主な理由としては、前回同様「用事があったから (忙しかったから)」が26.7%で最も高い。

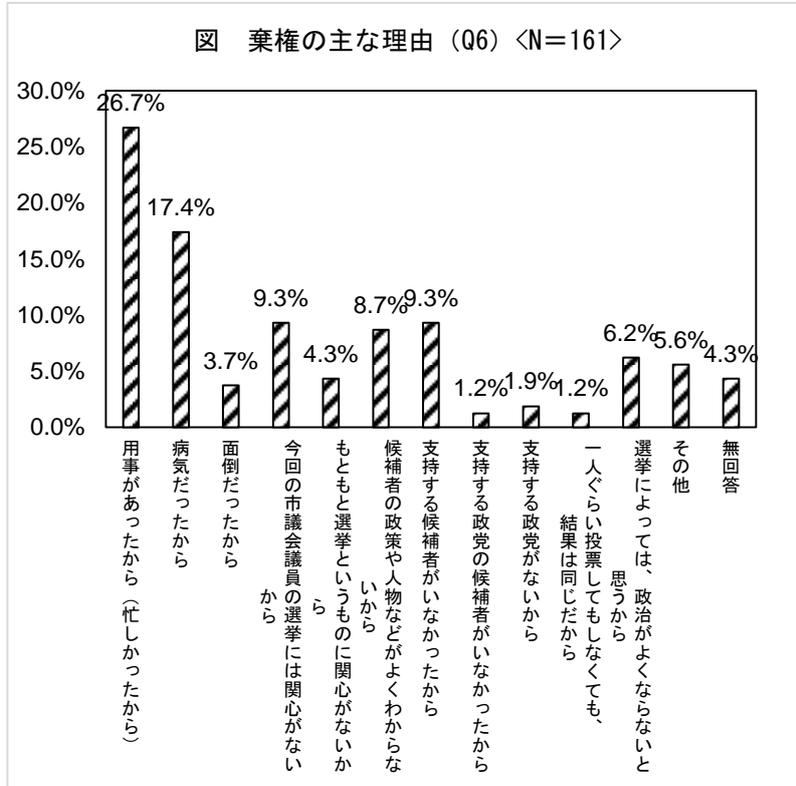


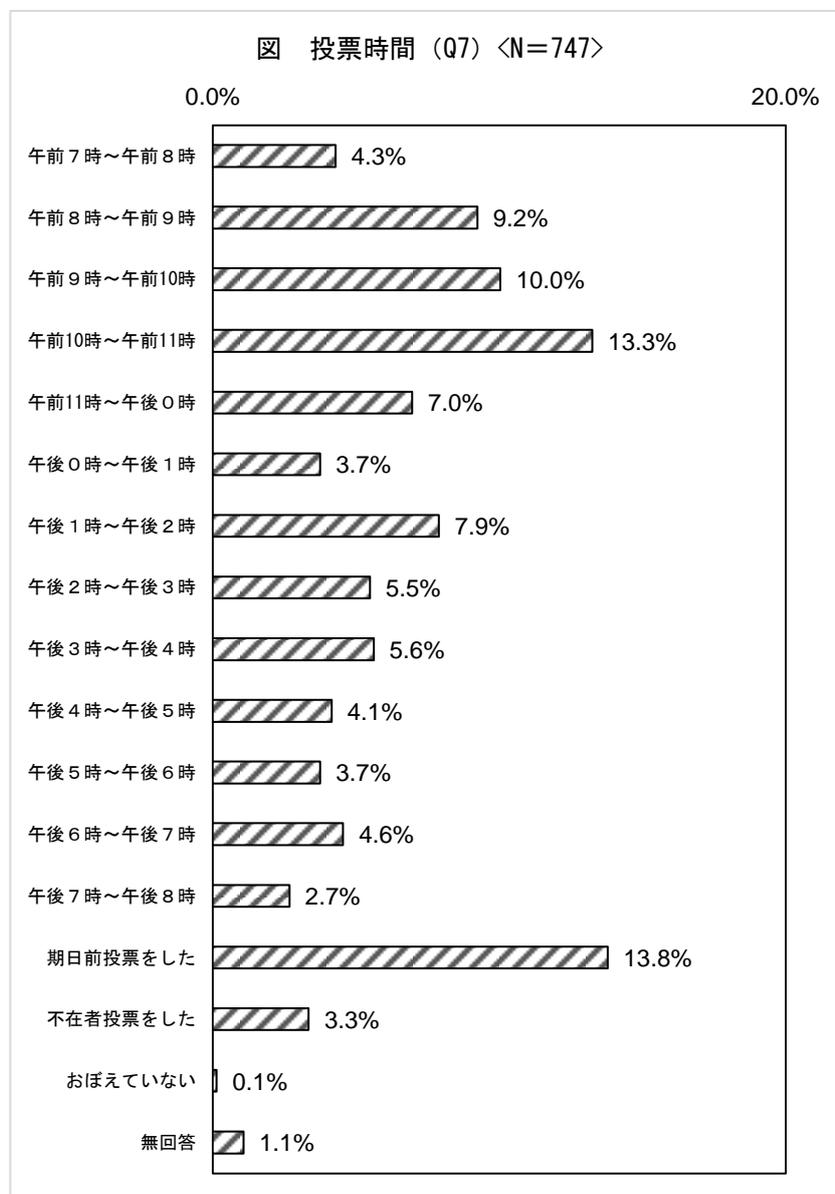
表 棄権の主な理由 (時系列変化)

	回収数	用事があったから (忙しかったから)	病気だったから	面倒だったから	市議会議員の選挙には関係がないから	もともと選挙というものに関心がないから	候補者の政策や人物などがよくわからないから	支持する候補者がいなかったから	支持する政党の候補者がいなかったから	支持する政党がないから	一人ぐらい投票しても、結果は同じだから	選挙によっては、政治がよくなるから	その他	無回答
昭和54年	257	41.6	15.9	3.5	3.5	4.3	7.0	6.6	-	1.6	2.7	4.7	5.8	2.7
昭和58年	397	30.5	12.8	2.3	3.3	6.3	13.1	7.8	1.0	1.8	2.3	7.3	9.3	2.3
昭和62年	485	33.8	15.1	2.1	1.4	4.9	17.5	7.0	0.6	0.6	1.6	5.2	8.0	2.1
平成3年	478	29.9	11.7	2.7	3.3	4.2	18.2	10.7	1.3	1.3	1.5	7.1	5.2	2.9
平成7年	397	31.2	12.8	2.8	2.5	8.8	15.6	10.6	1.3	1.8	2.3	5.0	3.5	1.8
平成11年	397	27.2	15.1	3.8	2.8	8.1	14.1	9.3	2.5	1.8	1.8	6.3	5.8	1.5
平成15年	199	32.2	11.1	2.0	6.5	3.5	22.6	10.6	2.0	1.0	1.5	7.5	3.0	0.5
平成19年	167	31.1	9.0	1.2	7.2	5.4	15.6	9.6	0.6	1.8	0.0	3.6	9.0	6.0
平成23年	285	29.1	13.0	1.8	6.0	5.6	16.5	9.5	0.7	2.8	1.1	4.9	4.9	4.2
平成27年	161	26.7	17.4	3.7	9.3	4.3	8.7	9.3	1.2	1.9	1.2	6.2	5.6	4.3

注) 数値は回収数を100とした%

(7) 投票した時間 (Q7)

・投票した人の4割強は午前中に投票を済ませており、「午前10時～午前11時」13.3%、「午前9時～午前10時」10.0%が多い時間帯である。午後に投票した人は4割弱である。また、「期日前投票」をした人が13.8%、「不在者投票」をした人が3.3%みられる。



(8) 投票した主な理由 (Q8)

- 投票した理由を複数回答で聞いたところ、最も多い理由は「投票するのは市民の義務だから」65.2%。以下、「政治を良くするには投票することが大切だから」56.0%、「地方自治は、自分たちの代表を選ぶことから始まるから」41.5%と続いている。
- 投票した主な理由については、今回、回答方式を択一回答から複数回答に改めたため、単純な比較はできないが、より多く選択される回答の順番は、ほぼ前回（平成23年）とほぼ同じである。今回の回答の特徴として、「地方自治は、自分たちの代表を選ぶことから始まるから」が高いことが指摘できる。

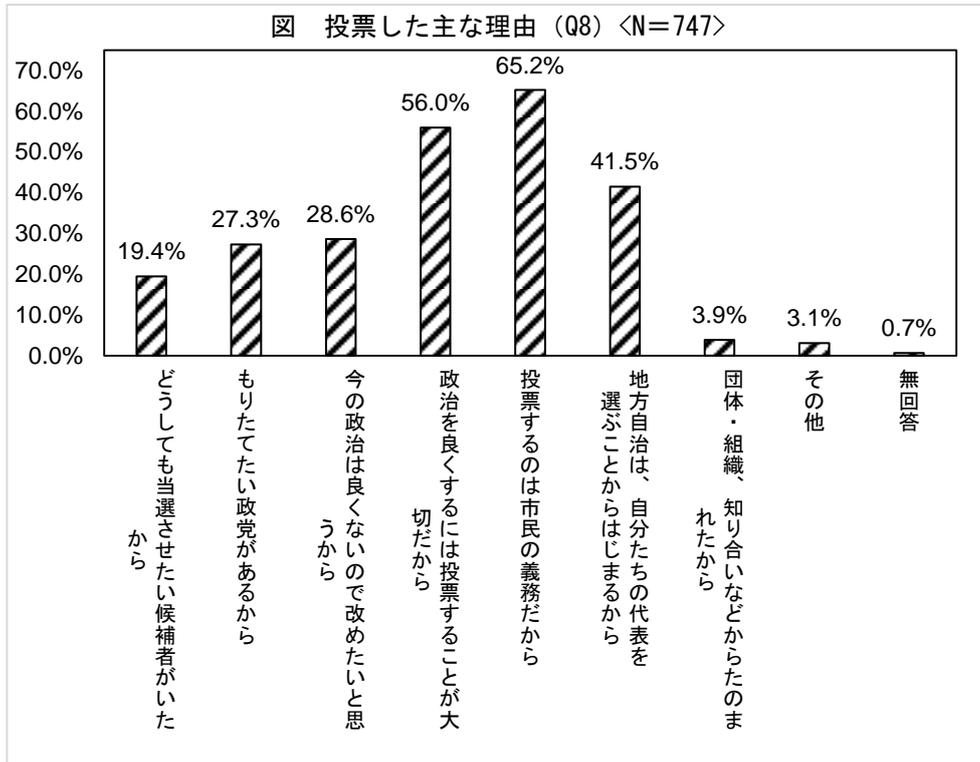


表 投票した主な理由 (時系列変化)

	投票した人	どうしても当選させたい候補者がいたから	もりたてたい政党があるから	今の政治は良くないので改めたいと思うから	政治を良くするには投票することが大切だから	投票するのは市民の義務だから	地方自治は、自分たちの代表を選ぶことから	団体・組織、知り合いなどからたのまれたから	その他	無回答
昭和54年	1099	20.3	5.2	4.0	16.0	33.5	14.7	3.5	0.5	2.3
昭和58年	1439	15.6	6.6	5.1	18.2	32.9	16.7	3.3	0.9	0.7
昭和62年	1427	13.6	5.6	7.7	18.9	32.4	16.2	2.4	1.1	2.1
平成3年	1093	10.2	6.4	6.8	21.5	34.5	17.0	2.3	0.8	0.5
平成7年	1096	17.5	3.9	12.5	20.4	28.9	12.0	2.3	1.4	1.0
平成11年	1246	11.9	3.2	6.3	24.1	34.3	13.4	2.9	1.9	2.0
平成15年	643	15.3	4.7	8.2	22.6	31.1	10.4	4.6	2.2	4.6
平成19年	471	12.1	4.9	8.9	28.2	28.9	10.8	2.1	1.9	2.1
平成23年	916	8.7	9.7	11.9	24.6	29.7	10.2	2.6	2.2	0.4
平成27年	747	19.4	27.3	28.6	56.0	65.2	41.5	3.9	3.1	0.7

注) 数値は回収数を100とした%

(9) 候補者決定の時期 (Q9)

- ・市議会議員選挙で選んだ候補者に投票することを決めた時期は「選挙期間に入る前から決めていた」が39.5%と最も高く、これに「選挙期間の初めごろに決めた」14.5%、「選挙期間の中ごろに決めた」11.1%を加えると、6割半の人が選挙期間の中ごろまでに決めている。
- ・前回と比較すると、「選挙期間に入る前から決めていた」「選挙期間の初めごろに決めた」「選挙期間の中ごろに決めた」という、比較的早い時期から決めている人の割合が上がり、「選挙期間の終わりごろに決めた」あるいは「投票当日に決めた」人の割合が低く傾向がみられた。

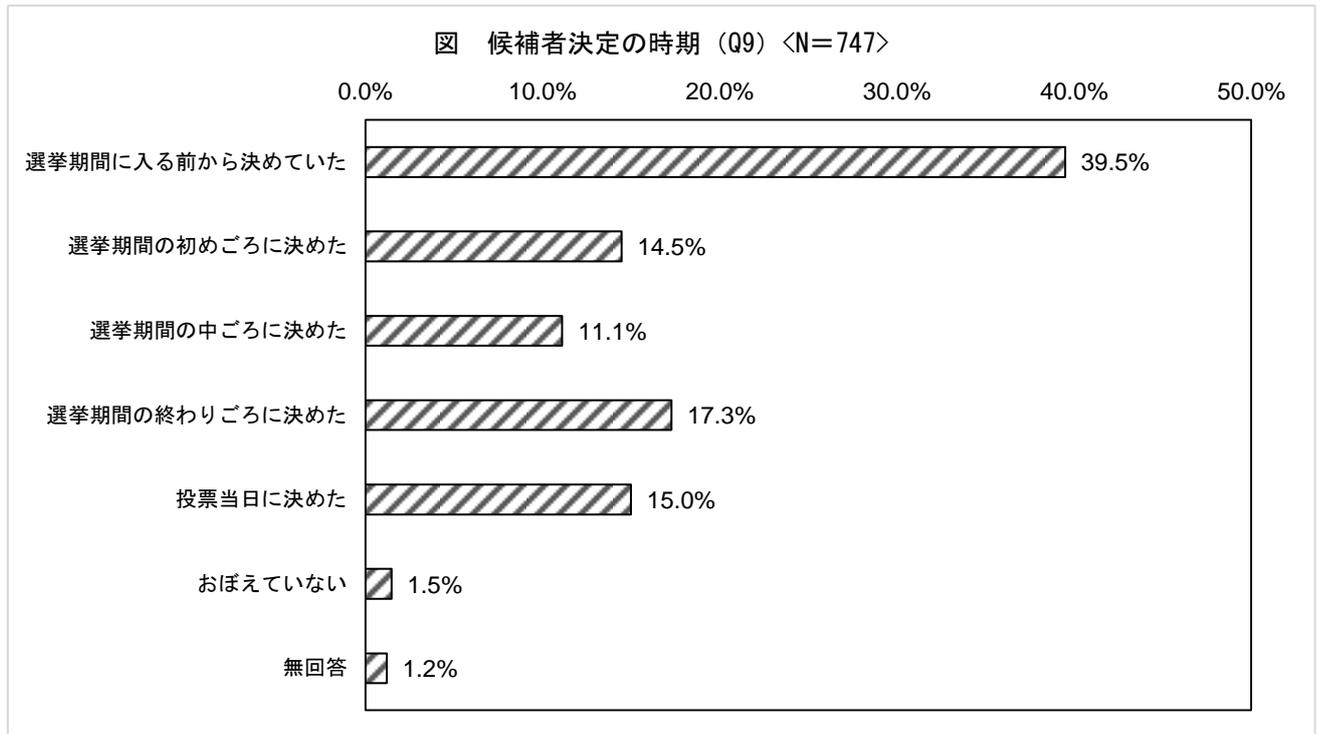


表 候補者決定の時期 (時系列変化)

	投票した人	選挙期間に入る前から決めた	選挙期間の初めごろに決めた	選挙期間の中ごろに決めた	選挙期間の終わりごろに決めた	投票当日に決めた	おぼえていない	無回答
昭和54年	1099	42.2	18.5	13.8	14.9	7.6	1.8	0.9
昭和58年	1439	44.2	17.5	12.4	14.7	8.6	1.6	1.0
昭和62年	1427	49.4	13.9	11.6	14.0	8.3	1.6	1.1
平成3年	1093	43.1	13.6	12.5	14.6	11.2	2.9	2.0
平成7年	1096	41.1	13.9	10.5	19.1	12.2	2.3	0.9
平成11年	1246	38.0	13.2	13.6	16.5	13.6	2.8	2.1
平成15年	643	39.1	11.5	10.3	16.2	15.6	1.9	5.4
平成19年	471	40.8	11.0	10.8	18.3	16.3	2.1	0.6
平成23年	916	36.9	12.8	8.6	21.3	17.4	2.5	0.5
平成27年	747	39.5	14.5	11.1	17.3	15.0	1.5	1.2

注) 数値は回収数を100とした%

(10) 候補者決定に役立った情報 (Q10)

・候補者決定に役立った情報を複数回答で挙げてもらったところ、「政党の日常の政治活動など」が36.0%と最も高く、以下、「選挙公報」が28.6%、「テレビや新聞などの選挙報道(解説)」26.5%、「候補者の演説会や街頭での演説など」25.0%、「候補者の日常の政治活動など」24.9%と続いている。

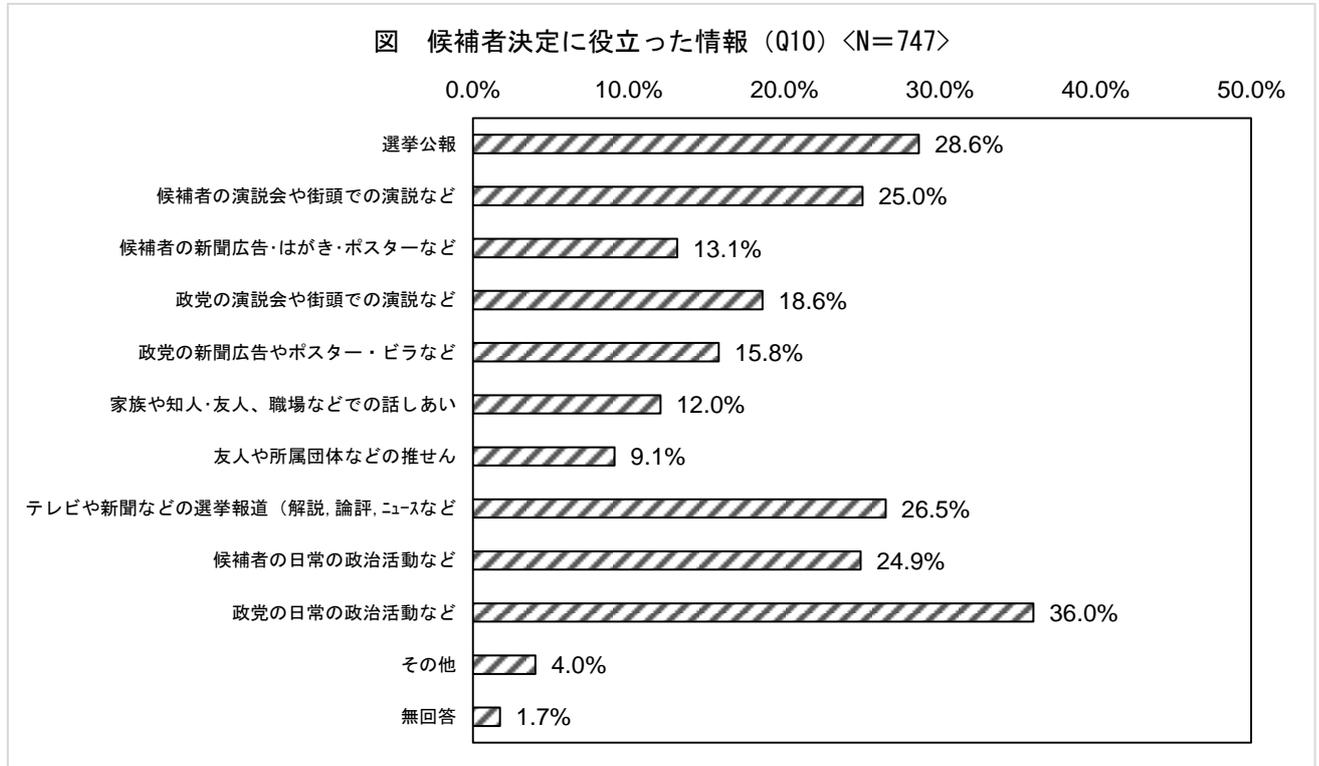


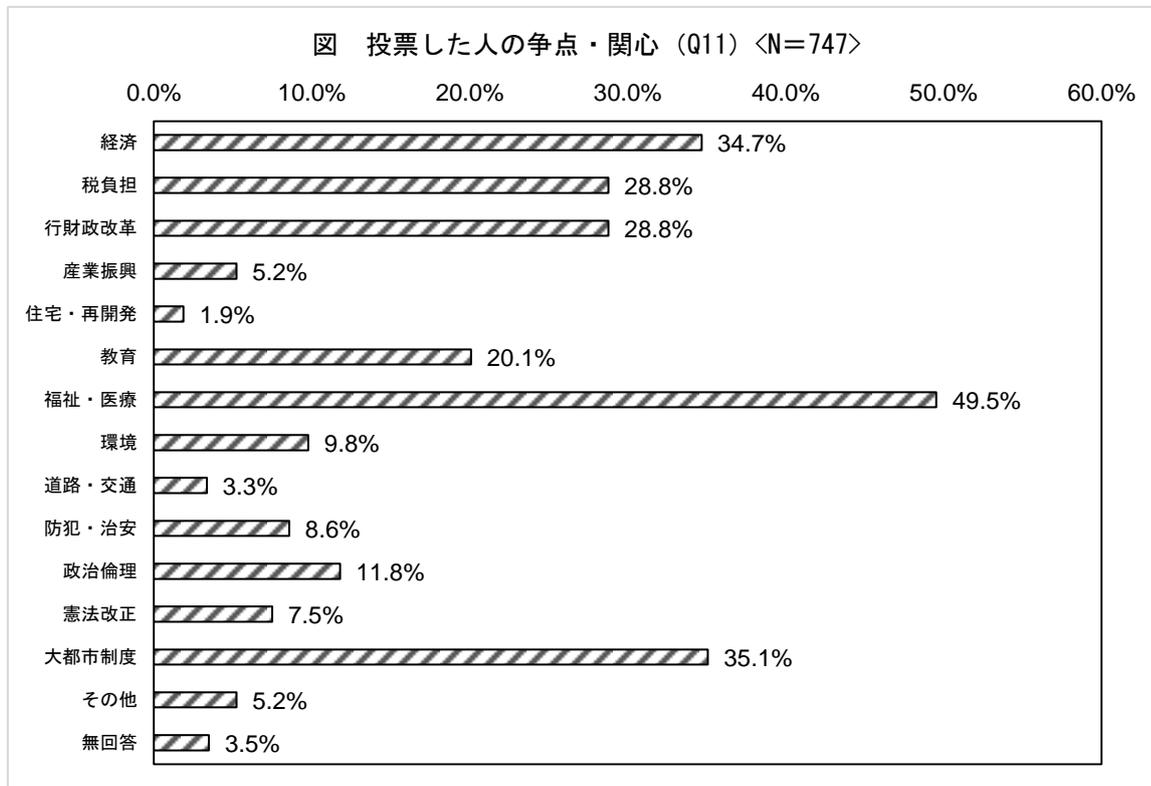
表 候補者決定に役立った情報 (時系列変化)

	投票した人	選挙公報	候補者の演説会や街頭での演説など	候補者の新聞広告・はがき・ポスターなど	政党の演説会や街頭での演説など	政党の新聞広告やポスター・ビラなど	家族や知人・友人、職場などでの話しあい、職場など	友人や所属団体などの推せん	ニュース(解説、論評、選挙報道や新聞など)	テレビや新聞などの選挙報道	候補者の日常の政治活動	政党の日常の政治活動	その他	無回答
昭和62年	1427	15.9	19.5	5.5	6.9	5.5	11.0	7.4	9.9	33.8	19.1	2.5	1.8	
平成3年	1093	21.0	21.4	7.3	7.3	7.4	9.4	7.3	11.6	30.2	16.4	1.5	2.7	
平成7年	1096	21.0	16.6	9.6	6.3	7.6	13.6	6.0	12.5	33.9	13.8	2.1	3.4	
平成11年	1246	22.6	16.3	10.6	7.0	9.2	10.0	6.7	12.2	26.4	14.5	2.4	4.3	
平成15年	643	24.8	24.3	14.8	12.5	11.4	14.8	11.8	10.3	29.2	16.2	3.3	6.3	
平成19年	471	29.9	26.5	13.0	10.8	10.8	14.6	11.3	8.7	29.9	20.8	4.2	0.6	
平成23年	916	27.9	20.4	14.6	11.8	13.9	11.5	8.3	20.5	22.2	21.7	3.7	1.3	
平成27年	747	28.6	25.0	13.1	18.6	15.8	12.0	9.1	26.5	24.9	36.0	4.0	1.7	

注) 数値は回収数を100とした%

(11) 投票した人の争点・関心 (Q11)

・投票した人の関心を持った点を聞いたところ、最も高いのが「福祉・医療」49.5%で、次いで、「大都市制度」が35.1%となっている。これは、今回選挙の特徴である・その後、「経済」34.7%、「行財政改革」と「税負担」が28.8%と続いている。



(12) 重視したのは政党か候補者個人か (Q12)

- ・今回の選挙における政党と候補者個人の重視度について、「政党を重くみた」が61.2%、「候補者を重くみた」が17.5%と、政党を重視している割合が高い。また、「いちがいにいけない」人は13.0%みられる。
- ・政党・候補者個人の重視度をこれまでの調査と比べると、「政党を重くみた」人が前回に大幅に増加したが、その傾向は続き、今回も61.2%と過去最高の重視度となった。他方、「候補者を重くみた」人は、17.5%で今回も過去最低を更新した。

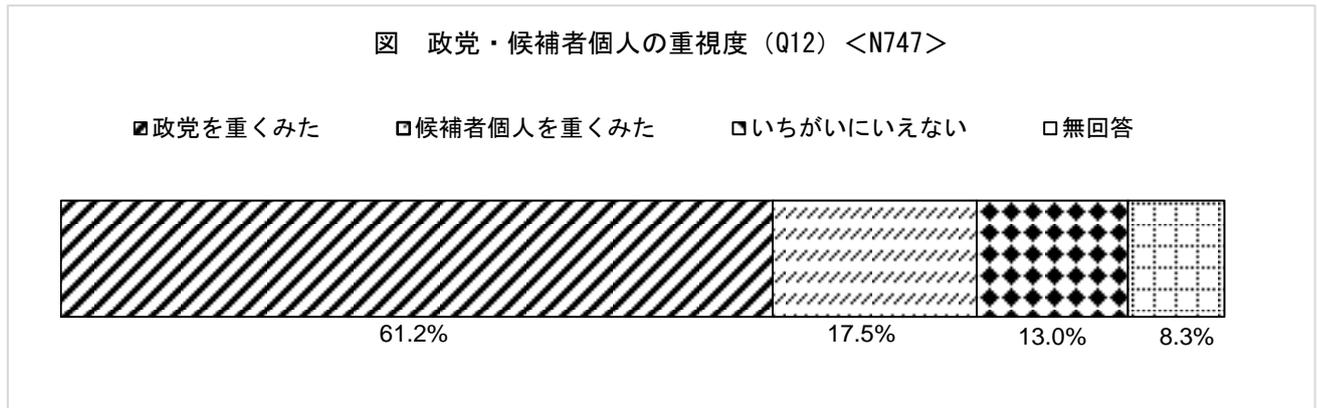


表 政党・候補者個人の重視度 (時系列変化)

	投票した人	政党を重くみた	候補者個人を重くみた	いちがいにいけない	無回答
昭和54年	1099	30.8	53.0	13.4	2.7
昭和58年	1439	35.8	47.0	14.5	2.7
昭和62年	1427	38.4	44.8	13.5	3.2
平成 3年	1093	37.5	42.5	17.5	2.6
平成 7年	1096	21.6	59.0	17.5	1.8
平成11年	1246	30.3	43.3	21.5	4.9
平成15年	634	39.7	40.7	12.0	7.6
平成19年	471	39.9	38.9	18.9	2.3
平成23年	916	55.2	26.7	14.8	3.2
平成27年	747	61.2	17.5	13.0	8.3

注) 数値は回収数を100とした%

(13) 候補者個人重視の理由 (Q13)

- 同様に、候補者個人を重視した人にその理由をひとつだけ聞いたところ、「その候補者は、識見・実績の点ですぐれていたから」が 22.1%と最も高く、次いで、「その候補者をよく知っている（信頼できる）から」と「市議会では、人物がとくに大切だから」が 21.4%となっている。「他の候補者よりでしたから」は 19.1%だった。
- 候補者個人を重くみる理由では、これまでの調査と比べて「その候補者は、識見・実績の点ですぐれているから」という回答が多く、「その候補者をよく知っている（信頼できる）から」が前回に引き続き、下がっている。

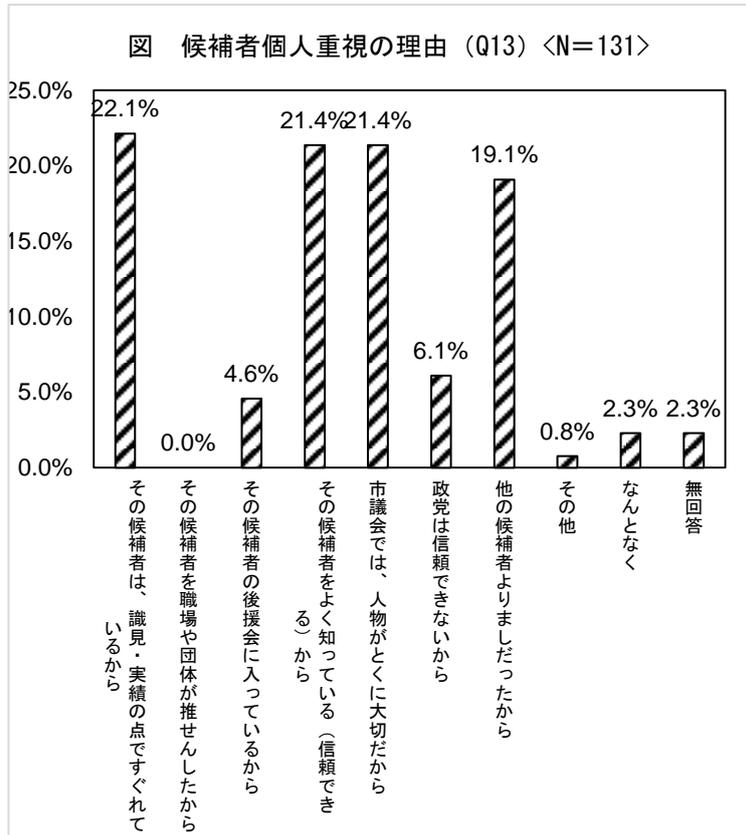


図 候補者個人重視の理由

	候補者個人を重くみた	その候補者は、識見・実績の点ですぐれているから	その候補者を職場や団体が推せんしたから	その候補者の後援会に入っているから	その候補者をよく知っている（信頼できる）から	市議会では、人物がとくに大切だから	政党は信頼できないから	他の候補者よりでしたから	その他	なんとなく	無回答
昭和54年	583	26.9	3.8	—	22.3	36.2	8.4	—	0.3	2.1	
昭和58年	676	28.1	3.7	5.0	24.5	29.7	3.3	—	1.3	3.0	1.5
昭和62年	640	31.7	2.0	4.8	22.5	32.5	2.2	—	0.5	2.3	1.4
平成3年	464	30.2	1.9	5.2	18.1	33.0	5.0	—	1.1	4.1	1.5
平成7年	647	24.9	3.4	4.8	19.6	31.1	8.2	—	2.2	3.9	2.0
平成11年	540	22.8	3.0	6.1	21.7	31.5	6.9	—	1.7	4.6	1.9
平成15年	258	18.2	3.9	6.6	29.8	20.2	4.3	12.0	1.6	2.7	1.2
平成19年	183	15.3	1.1	6.0	29.0	19.1	3.3	19.7	2.7	1.6	2.2
平成23年	245	24.3	3.3	3.7	23.7	17.6	4.1	15.9	2.9	2.9	2.4
平成27年	131	22.1	0.0	4.5	21.4	21.4	6.1	19.1	0.8	2.3	2.3

注) 数値は回収数を100とした%

(14) 政党重視の理由 (Q14)

- ・ 政党を重視した人にその理由をひとつだけ聞いたところ、「その政党の政策・活動を支持しているから」が 49.7%と最も高く、次いで、「その政党は、ほかの政党よりもまだだから」 35.9%となっている。
- ・ 政党を重くみる理由では、これまでの調査と比べて「その政党の政策・活動を支持しているから」という回答が 49.7%と今回さらに増え、「その政党は、他の政党よりもまだだから」が引き続き下がっている。

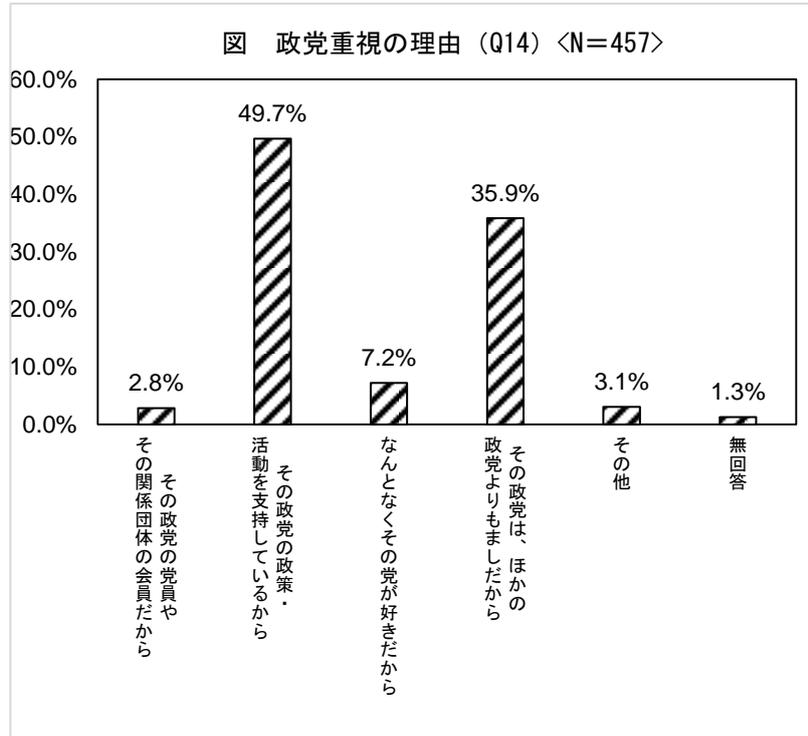


表 政党重視の主な理由 (時系列変化)

	政党を重くみた	その政党の会員やその関係団体の会員だから	示しているからその政党の政策・活動を指	りもまだだからその政党よ	その他	なんとなく	無回答
昭和54年	339	7.4	36.9	45.7	0.6	4.1	
昭和58年	515	6.4	37.5	43.1	1.2	1.7	1.0
昭和62年	548	7.5	37.8	41.4	2.6	2.7	0.9
平成 3年	410	6.6	30.7	50.2	2.2	2.9	—
平成 7年	237	5.9	38.4	43.9	3.0	0.8	2.1
平成11年	377	5.6	32.4	50.4	2.4	3.4	—
平成15年	252	9.1	29.8	53.6	2.8	4.8	—
平成19年	188	5.9	35.6	53.7	2.7	2.1	—
平成23年	506	2.4	44.5	41.5	4.7	6.5	0.4
平成27年	457	2.8	49.7	35.9	3.1	7.2	1.3

注) 数値は回収数を 100 とした%

(15) 市議会選挙で接触した活動 (Q15)

- ・今回の市議会議員選挙で接触した活動を複数回答で挙げてもらった。「とくにみたり、きいたりしたものはなし」は 5.0%に過ぎない。「無回答」が 14.5%いるが、5人に4人は何らかの活動に接触している。平均回答個数は 4.07 個で、一人あたり 4つ強の活動に接触しているようである。
- ・接触した活動では、「選挙公報」が 34.7%と最も高く、次いで、「候補者の街頭演説」が 30.1%、「候補者のポスター」が 28.7%と続いている。
- ・「新聞の選挙報道（解説、評論、ニュースなど）」「ラジオやテレビの選挙報道（解説、評論、ニュースなど）」といったマスコミの選挙報道の接触が増えていることが、前回に引き続き、今回の特徴となっている。

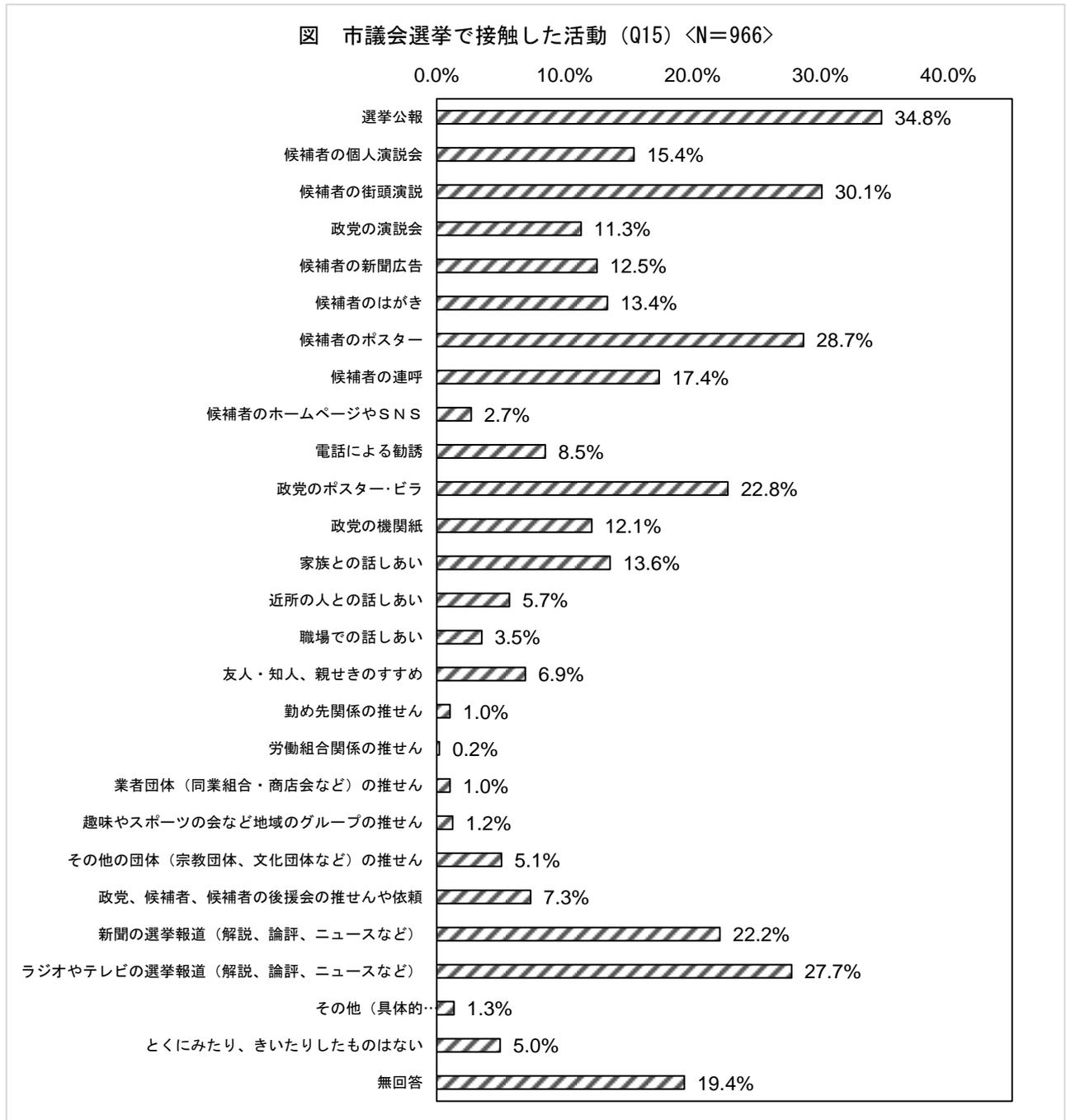


表 市議会議員選挙で接触した活動（時系列変化）

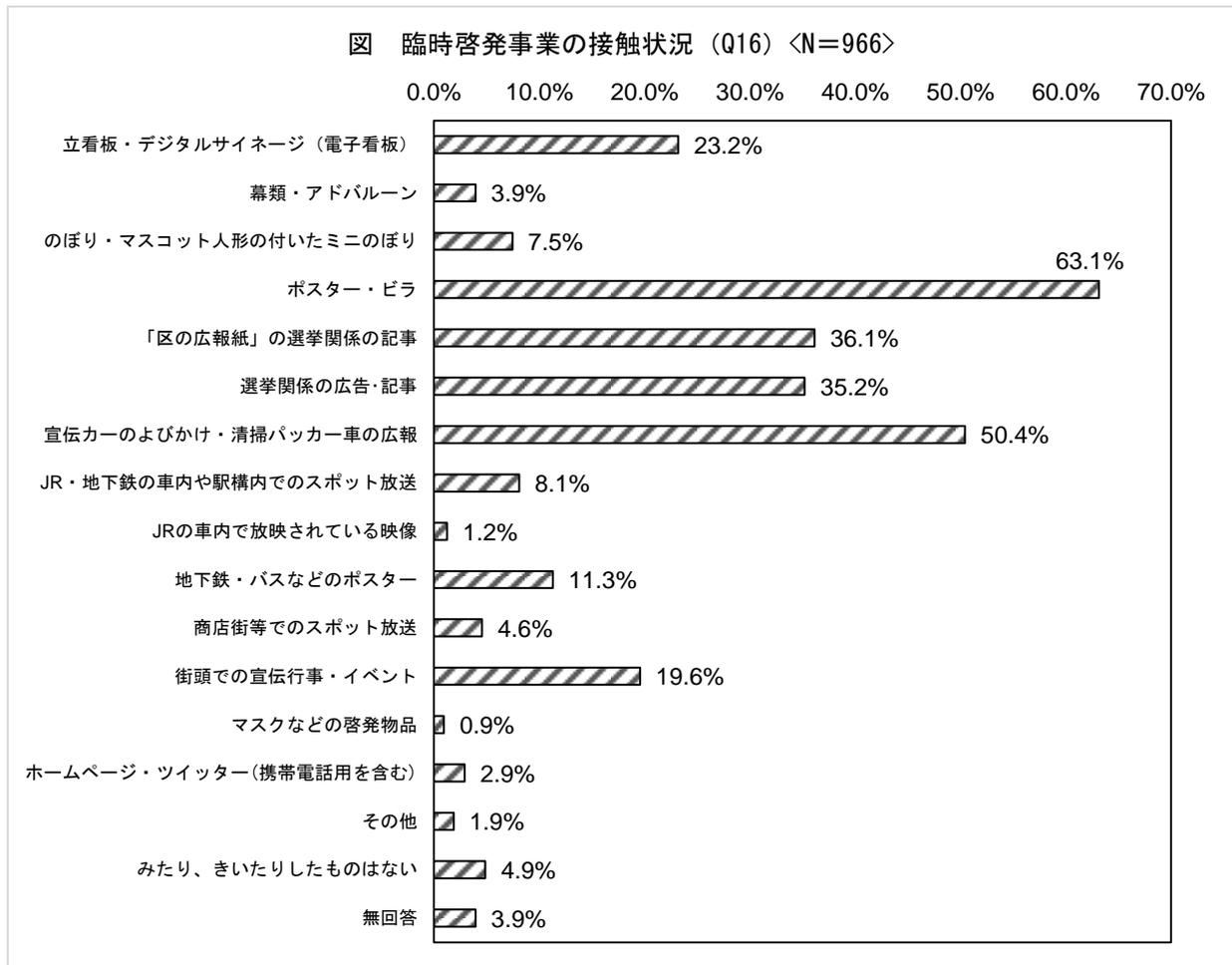
	回収数	選挙公報	候補者の個人演説会	候補者の街頭演説	政党の演説会	候補者の新聞広告	候補者のはがき	候補者のポスター	候補者の連呼	候補者のホームページやSNS	電話による勧誘	政党のポスター・ビラ	政党の機関紙	家族との話しあい	近所の人との話しあい
昭和54年	1099	40.1	28.8	26.3	10.6	21.0	10.7	36.2	33.1	—	19.2	32.4	—	32.7	10.9
昭和58年	1857	53.4	27.6	41.8	9.2	31.8	25.7	38.9	48.2	—	29.8	45.6	—	30.5	10.4
昭和62年	1921	52.7	28.8	43.8	9.5	28.6	27.5	49.2	53.3	—	34.8	49.2	—	24.9	10.0
平成 3年	1574	51.3	26.6	45.9	8.2	29.3	25.9	50.2	53.7	—	36.7	49.6	—	22.2	8.3
平成 7年	1496	47.7	24.6	39.5	5.9	25.9	21.1	43.9	47.0	—	33.4	42.3	—	24.1	8.4
平成11年	1650	47.1	22.8	39.0	7.1	23.6	20.5	44.4	41.0	—	31.5	46.3	—	20.2	7.5
平成15年	838	37.8	21.1	32.0	6.4	14.1	17.4	41.1	31.5	—	22.2	23.6	10.9	17.4	7.8
平成19年	640	42.0	18.0	38.9	5.3	16.9	20.8	44.5	33.0	—	18.8	28.1	13.1	14.7	5.8
平成23年	1201	37.1	15.1	33.1	7.8	13.7	15.2	42.0	24.7	—	14.0	25.8	8.5	15.2	5.7
平成27年	966	38.8	15.4	30.1	11.3	12.5	13.4	28.7	17.4	2.7	8.5	22.8	12.1	13.6	5.7

	回収数	職場での話しあい	友人・知人、親せきのすすめ	勤め先関係の推せん	労働組合関係の推せん	業者団体（同業組合・商店街など）の推せん	自治会、婦人会、老人会、趣味やスポーツの会などの地域団体の推せん	その他の団体（宗教団体、文化団体など）の推せん	政党、候補者、候補者の後援会の推せんや依頼	新聞の選挙報道（解説、論評、ニュースなど）	ラジオやテレビの選挙報道（解説、論評、ニュースなど）	その他	とくにみたり、きいたりしたものはない	無回答
昭和54年	1099	5.1	12.8	2.1	4.4	3.7	9.0	6.6	17.3	20.2	19.2	0.4	2.2	1.3
昭和58年	1857	6.8	20.8	5.0	4.5	5.4	10.8	16.2	25.8	31.3	27.5	1.0	2.3	2.9
昭和62年	1921	5.5	18.8	5.1	4.5	4.1	7.4	11.8	23.4	32.0	27.7	0.6	2.3	3.7
平成 3年	1574	4.3	16.1	4.6	5.2	3.8	7.1	11.2	21.0	35.4	29.2	0.4	1.4	2.5
平成 7年	1496	5.2	18.2	4.7	4.1	2.4	5.9	11.3	19.5	32.4	28.2	1.4	2.7	2.9
平成11年	1650	4.4	16.5	3.9	3.7	2.4	6.7	10.4	16.5	30.2	27.6	0.7	2.8	3.0
平成15年	838	4.3	17.1	4.3	3.1	1.6	6.2	9.7	12.9	16.5	15.6	1.0	3.7	3.7
平成19年	640	3.1	18.9	2.2	2.3	1.7	2.5	8.9	12.3	17.0	14.7	1.7	7.3	1.7
平成23年	1201	4.7	14.0	2.1	1.9	0.8	3.1	4.7	7.7	22.1	25.6	2.2	6.3	2.3
平成27年	966	3.5	6.9	1.0	0.2	1.0	1.2	5.1	7.3	22.2	27.7	1.3	5.0	19.4

注) 数値は回収数を100とした%

(16) 臨時啓発事業の接触状況 (Q16)

- ・臨時啓発事業で接触したものを複数回答で挙げてもらった。「とくにみたり、きいたりしたものはない」は4.9%、「無回答」は3.9%に過ぎず、9割強は何らかの活動に接触している。また、平均回答個数は2.96個で、一人あたり3つほどの活動に接触している。
- ・接触率で最も高いのは、「ポスター・ビラ」で63.1%、以下、「宣伝カーのよびかけ・清掃パッカー車の広報」50.4%、「[区の広報紙]の選挙関係の記事」36.1%と続いている。
- ・これまでの調査と回答の選択肢が一部変わったので単純に比べることはできないが、従来からの傾向から大きな変化はないが、ポスター類への注目がやや増えたこと、ホームページやツイッターへの注目がまだまだ小さいものの少しずつ増えていることを指摘できる。



(17) 候補者決定の判断材料の充足度 (Q17)

- ・ 候補者決定の判断材料については、「十分だった」が 19.0%、「まあまあだった」が 37.8%で、両者を合わせると、充足していたという人は 57.8%と半数以上を占める。一方、「多少は不足だった」は 23.0%、「非常に不足だった」は 13.3%で、両者を合わせると、不足だったという人は 33.3%である。
- ・ 候補者決定の判断材料の充足度は平成3年以降、ほぼ同程度の評価となっている。今回は注目が集まったせいか、充足度は前回より上がっている。

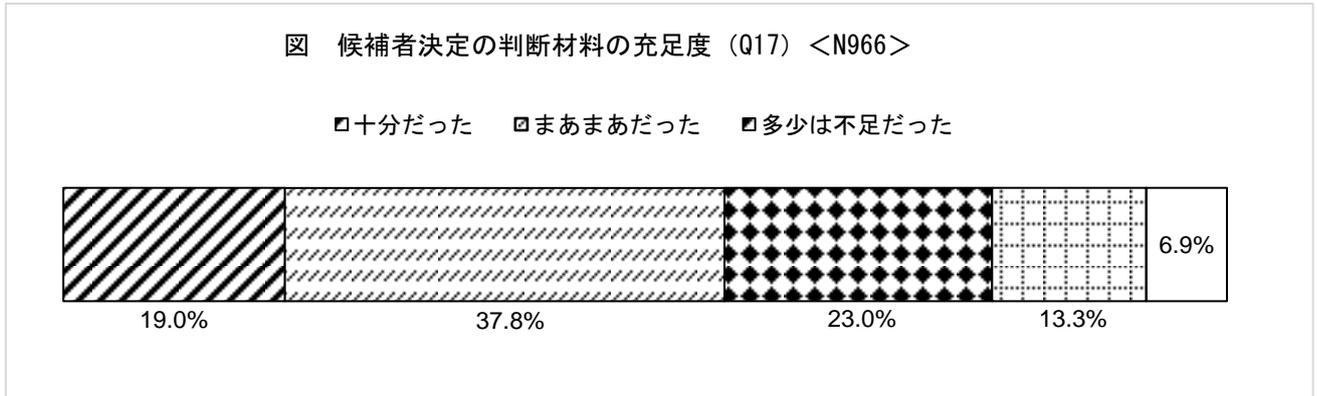


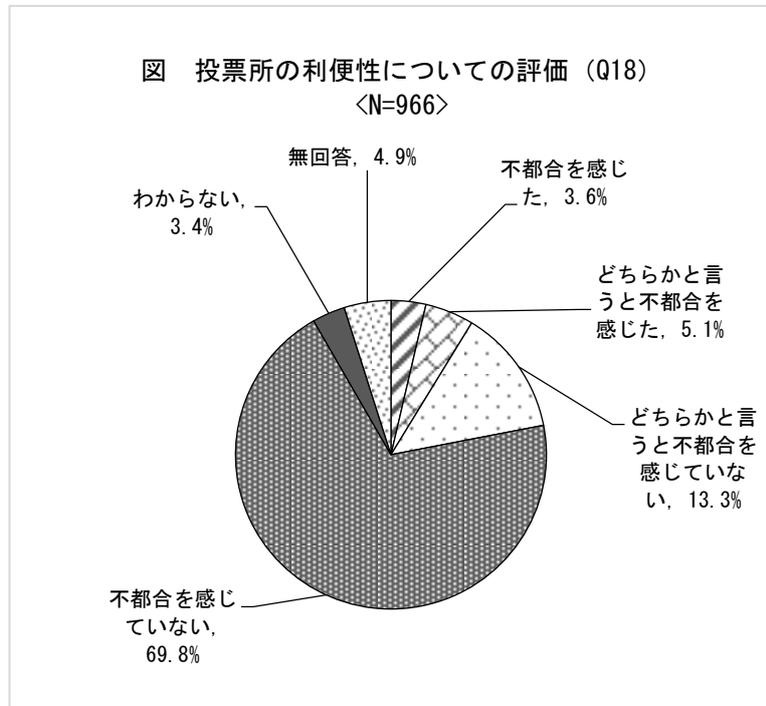
表 候補者決定の判断材料の充足度 (時系列変化)

	回収数	足りていた計	足りていた		不足だった計	不足だった		無回答	どちらでもない
			十分だった	まあまあだった		多少は不足だった	非常に不足だった		
昭和54年	1368	48.0	13.9	34.1	26.4	19.9	6.5	3.3	16.6
昭和58年	1857	62.7	19.7	43.0	30.2	18.2	12.0	7.2	-
昭和62年	1921	61.7	18.1	43.6	29.2	18.4	10.8	9.1	-
平成3年	1574	54.3	15.5	38.8	36.4	19.9	16.5	9.2	-
平成7年	1496	57.5	15.8	41.7	33.8	18.0	15.8	8.7	-
平成11年	1650	58.0	16.9	41.1	33.1	18.3	14.8	8.8	-
平成15年	838	56.3	18.5	37.8	36.4	19.7	16.7	7.3	-
平成19年	640	53.1	15.8	37.3	41.9	21.9	20.0	5.0	-
平成23年	1201	52.6	14.6	38.1	43.9	27.0	16.9	3.5	-
平成27年	966	56.8	19.0	37.8	36.2	23.0	13.3	6.9	-

注) 数値は回収数を 100 とした%

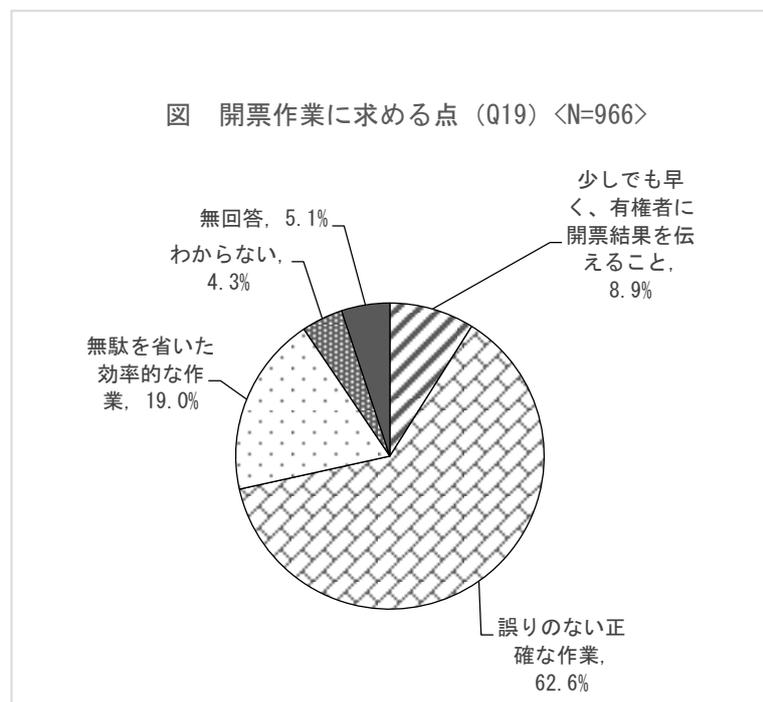
(18) 投票所の利便性についての評価 (Q18)

- 投票の場所について、不都合を感じた人は、「不都合を感じた」・「どちらかという和不都合を感じた」の両方をあわせて8.7%であり、ほとんどの人が不都合を感じていない(「不都合を感じていない」・「どちらかという和不都合を感じていない」の両方をあわせて83.1%)。



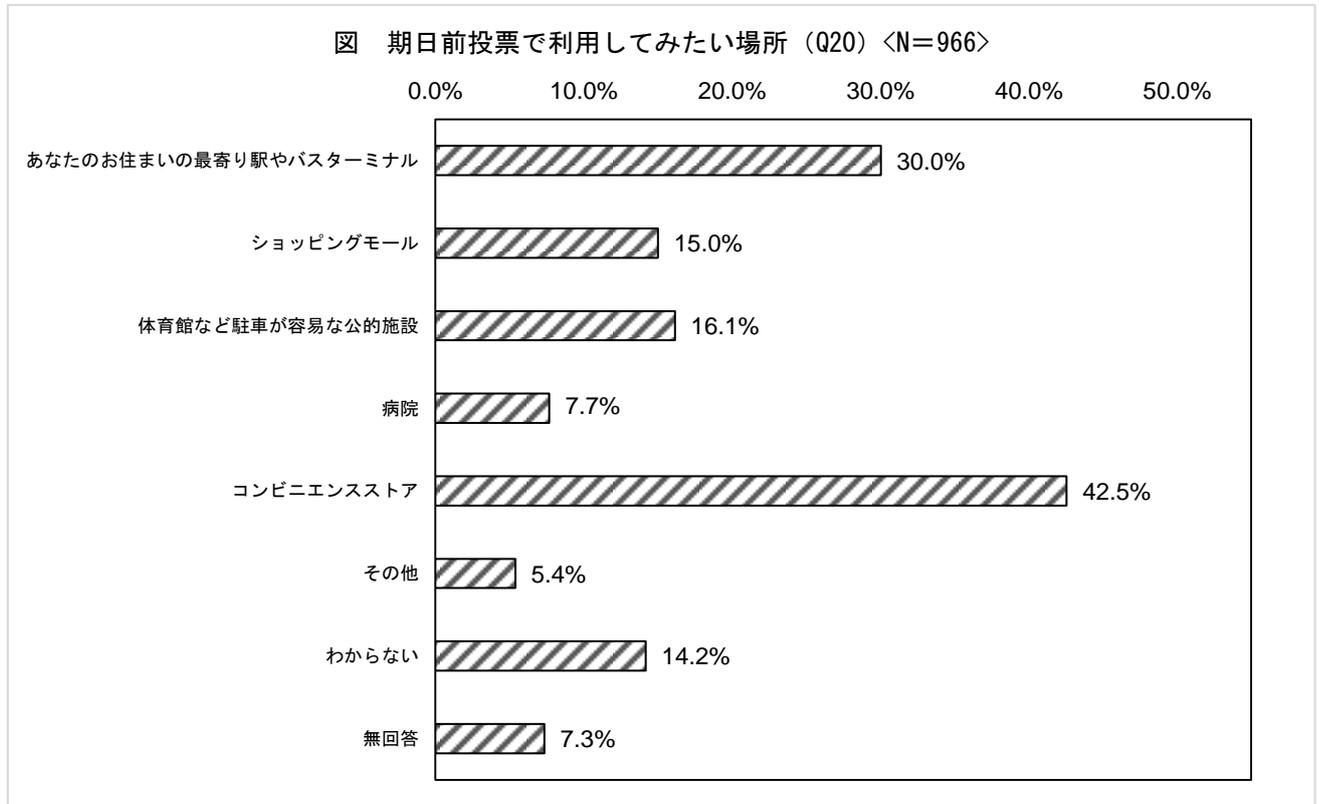
(19) 開票作業に求める点 (Q19)

- 開票作業に際し重視すべき考え方を尋ねたところ、「誤りのない正確な作業」を望む人が最も多く62.6%に上る。「無駄を省いた効率的な作業」が19.0%、「少しでも早く有権者に開票結果を伝えること」は8.9%であり、速さや効率性よりも正確性が望む声が非常に多かった。



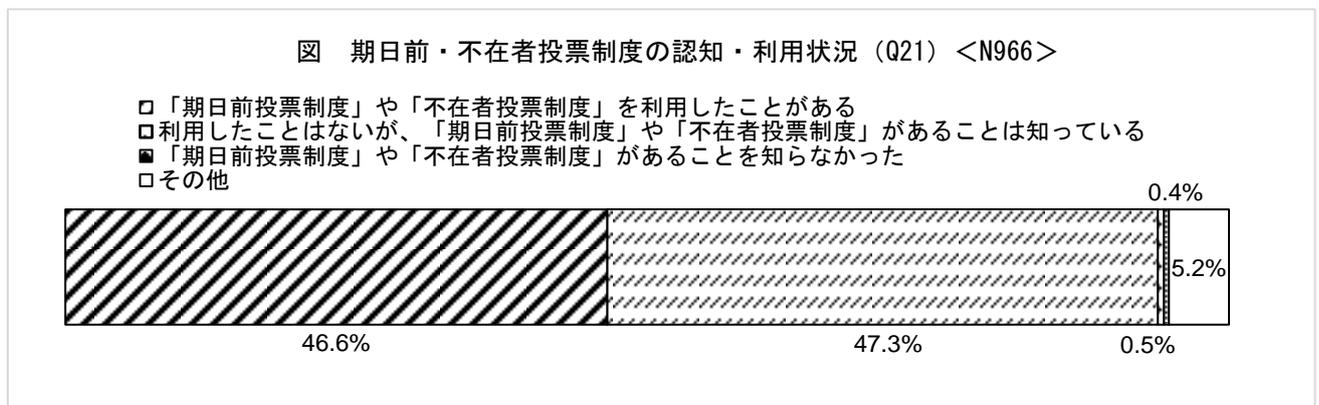
(20) 期日前投票で利用してみたい場所 (Q20)

・期日前投票で利用してみたい場所を複数回答で選んでもらったところ、最も多かったのは「コンビニエンスストア」で半数近く(42.5%)の人に選ばれた。次いで「お住まいにも寄りの駅やバスターミナル」 30.0%だった。「駐車が容易な公的施設」(16.1%)や「ショッピングモール」(15.0%)が続く。



(21) 期日前・不在者投票制度の認知・利用状況 (Q21)

・期日前投票制度、不在者投票制度の認知・利用率は93.9%であり、ほとんどの人がこの制度を認識している。
 ・これらの制度を「利用したことがある」人は46.6%おり、また「利用したことはないが制度があることは知っている」人は47.3%である。他方、「制度があることを知らなかった」人は、わずか0.5%に過ぎない。



(2 2) もっとも関心を持っている選挙 (Q22)

- ・いろいろな選挙の中で最も関心のある選挙をひとつだけ聞いたところ、「衆議院議員選挙」が 35.7% と最も高く、「市長選挙」が 21.4% と続く。それ以外では「市議会議員選挙」6.9%、「知事選挙」5.7%。である。また「とくに関心をもっている選挙はない」という人は 22.0% みられる。
- ・これまでの調査と比較すると、「衆議院議員選挙」が相変わらず最も多く、「市長選挙」が前回に引き続き増えているが、「市議会議員選挙」は引き続き漸減し、「知事選挙」が大幅に低下している。

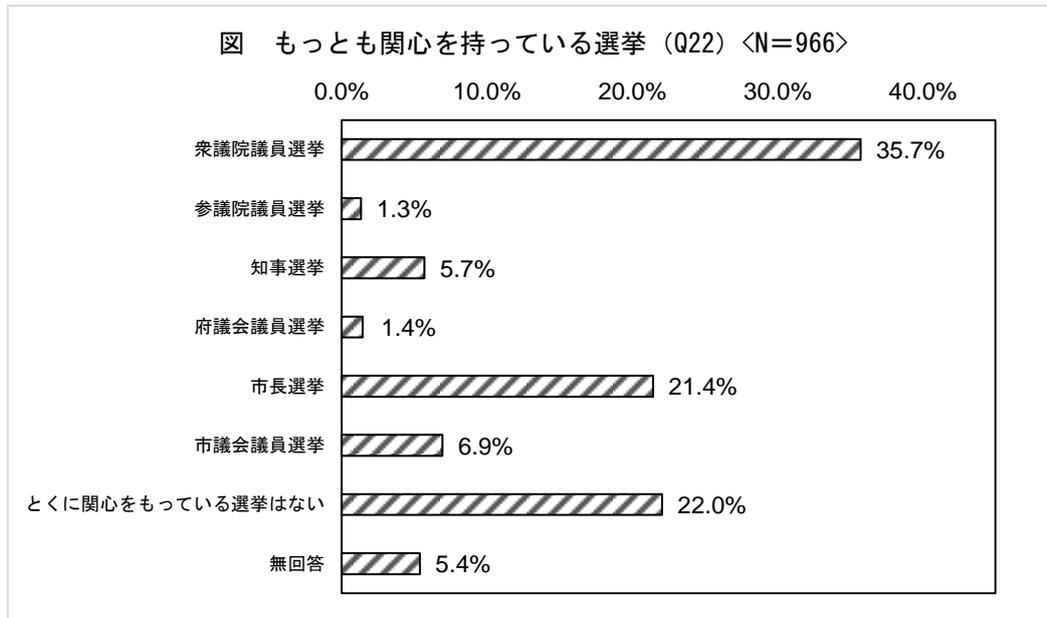


表 もっとも関心を持っている選挙 (時系列変化)

	回収数	衆議院議員選挙	参議院議員選挙	知事選挙	府議会議員選挙	市長選挙	市議会議員選挙	特に関心をもっている選挙はない	無回答
昭和54年	1431	24.6	3.1	23.2	2.9	5.9	20.8	10.6	8.9
昭和58年	1857	34.6	0.1	11.6	2.5	4.9	18.3	20.7	3.3
昭和62年	1921	42.0	3.7	5.5	2.1	4.3	18.6	20.9	2.9
平成 3年	1656	43.8	2.9	4.4	2.2	5.2	13.8	24.8	2.9
平成 7年	1694	34.4	1.7	12.9	2.3	4.7	13.6	27.2	3.4
平成11年	1650	32.1	2.1	15.2	2.0	3.8	14.8	26.8	3.3
平成15年	838	37.2	1.9	11.5	1.8	6.9	16.1	24.7	3.7
平成19年	640	38.0	3.9	10.3	0.8	8.4	10.8	23.4	4.4
平成23年	1201	35.8	1.2	16.5	0.9	13.8	7.7	21.4	2.7
平成27年	966	35.7	1.3	5.7	1.4	21.4	6.9	22.0	5.4

注) 数値は回収数を 100 とした%

(2 3) これまでの投票状況 (Q23)

- ・これまでの国会議員選挙や地方選挙の投票状況をみると、「かならず投票している」人は 53.0% で、